■細井平洲　　儒学者。禄よりも自由な賓師の立場で，米沢藩主上杉治憲の藩政改革を成功に導くと，生地尾張の藩儒になった。
ほそいへいしゅう
荻生徂徠没・1728＝　　尾張国知多郡平島村で，紀氏系武士を祖とする豪農甚十郎の次男に生まれる。母は竹内氏。名は甚三郎。

享保大飢饉・1732＝ 4歳：
もともと頭が良く，

昆陽蕃諸考・1735＝ 7歳：母の弟が住職の近くの寺小屋に通い始めて，学問好きとなり，

・・・・・・1737＝ 9歳：早くも教えることが無くなったと，住職に勧められ，
・・・・・・1738＝10歳：名古屋の医者加藤宇周の猶子になって勉学開始，

のびやかな性格もさらに伸ばされ，やがて本格的に学ぼうと，

・・・・・・1743＝15歳：両親から渡されていた学資50両渡されて，_京都に上り，諸儒を歴訪するも学派にこだわる狭量さに，
石田梅岩没・1744＝16歳：_独学しようと帰郷。旅費以外の残りの金で書数百巻を買い，2頭の馬に載せて帰ったところ，名古屋で塾{叢桂社}を開いた折衷学派中西淡淵のことを聞いて訪ね，その心の広さに敬服，直ちに入門，
徳川吉宗隠居1745＝17歳：_淡淵から長崎行きを強く勧められ，弟が長崎で儒学を学んでいるという商人の紹介を得て，小河仲栗を訪ねて寄留，その親友飛鳥子静両者の厚意で，漢語を陳象背，書を堇宜一に，南画を伊孚九に学び始める。
菅原伝授＋・1746＝18歳：
忠臣蔵・・・1748＝20歳；母危篤の報に帰郷するも間に合わず，自らも疲れで病臥。すでに陰りが見えていた生家の窮乏進み，養生しながら読書すべく，意を決して親友仲栗に借金。仲栗が名古屋{叢桂社}に入る際，子の爵を預かり教育。
・・・・・・1750＝22歳：_淡淵が塾を江戸に移し，仲栗も同行。淡淵から後顧を託された伊藤玄沢の支援受け，
徳川吉宗没・1751＝23歳：_江戸に出るも，淡淵の教えを受けながらも独するよう諭され，朱子学一本やりの昌平黌にも失望。神田神明町に私塾{嚶鳴館}を開き，細井平洲と号する。
・・・・・・1752＝24歳：*淡淵が結核で死去すると，その門下生はみな平洲の塾に入り，一気に名が知られ，傑物も集まり始める。
この間，親友子静が尾張藩に砂糖キビを広めたいと申し出てくると早速支援，平島村で好成績を納め，藩の許可も得て製糖も実現，財政に大きく貢献して近傍に広まり，感謝されることになる。さらに仲栗の妻子を江戸に連れて来ることを兼ねて帰郷し歓迎されるも，
山脇東洋解剖1754＝26歳：実家はついに破産。父を連れて砂糖キビの仕事終わった子静が江戸に来てくれるが，
自然真営道・1755＝27歳：その子静が死去し，衝撃。
・・・・・・1756＝28歳：続いて，爵が江戸で流行した疫病に罹り夭折。友人の家で_「聖門伝詩家」を見つけ，以後，耽読。
宝暦事件・・1758＝30歳：_名声を聞いて，伊予国西条藩主松平頼淳が黄檗宗の僧大鵬と対談する際，通訳となり，藩儒に招かれるも固辞，以後，仕官の招きに応ぜず，禄よりも自由な賓師の立場を貫く一方，辻説法を始め，評判になり，偶然辻説法を聞いた米沢藩医藁科松伯が入門，藩建直しのため松伯が集めた有能な若手集団全員も入門，
大弐政治批判1759＝31歳：_研究続けてきた漢詩の集大成「詩経古伝」10巻を刊行。
大岡忠光没・1760＝32歳：江戸に大火があり，塾も被災，蔵書のほとんどを失う。浜町に移り再建。
・・・・・・1761＝33歳：終生の友仲栗が死去。_松伯らの建言で高鍋藩主次男が米沢藩主上杉家定の世子に迎えられ，
・・・・・・1763＝35歳：*上杉治憲になると，松伯らによって，その賓師に迎えられ，深く尊敬されるようになり，
加賀千代句集1764＝36歳：
明和事件・・1767＝39歳：_家督を継いだ治憲は，自ら範を示して，藩政改革に着手，
・・・・・・1769＝41歳：_松伯が死去してまもなく，初めてお国入りして守旧派の抵抗に手を焼いた治憲から直々に招聘され，
御蔭参流行・1771＝43歳：_1年限る条件で，米沢まで赴き講説，封内を巡行，切りつけにきた帰農武士集団も逆に弟子入り，
田沼意次老中1772＝44歳：江戸大火で桜田・麻布の両藩邸が焼失すると，その復興に帰農武士らを活用することを提案，
大原騒動・・1773＝45歳：_米沢藩での守旧派の抵抗はなお強く，改革派家老竹俣当綱・莅戸善政への反対はもちろん，元凶は平洲と，家老須田満主ら7人が決起し，藩主治憲に迫るが，駆付けた前藩主家定に一喝されて退散，治憲は平洲の教えを肝に，満主切腹はじめ断固とした処分，扇動したことが判明した藁科立沢を斬罪とし，決着。
雨月物語刊・1776＝48歳：_藩校興譲館を再興した治憲に招かれて，学規学則を作って，藩学の基礎を固めただけでなく，農村に出向いて講義し感銘を与える。

_米沢藩での成功で，名声が全国的になり，故郷の尾張藩でも平洲招かないのは恥と思う重臣らが登場，
・・・・・・1780＝52歳：*ついに賓師の立場を捨て，尾張藩の藩儒として出仕，その喜び方に非難侮蔑もでるが，
・・・・・・1781＝53歳：_藩主徳川宗睦に従って，名古屋に入り，藩校明倫館の再興に努め，藩主や家臣への講義のかたわら領内各地に講釈所を設け，巡行して講釈し，直接民衆の教化に当たり，
天明大飢饉始1782＝54歳：_名古屋の書肆で「孝経」の講談会を開いた際，感激した美濃路起宿の本陣を勤めた本居宣長門人加藤磯足の願いで，起宿まで足を運んで講談会を開くと，連日村民のほぼ全員が聴講に訪れるなど，以後，いくつかの村でも実施して，多くの村民を集める。
蘭学階梯・・1783＝55歳：_明倫館が完成すると督学となり，歴史編纂所である継述館総裁も兼ねるが，
意知刺殺事件1784＝56歳：_大飢饉が発生すると，江戸に帰り，尾張藩邸内の新居に藩校を建てる一方，度々名古屋に行って教授，
田沼意次失脚1786＝58歳：
寛政改革始・1787＝59歳：休暇をとって，平島村に帰郷。
異学の禁・・1790＝62歳：_世孫の侍読を兼ねるが，
混浴禁止・・1791＝63歳：
ﾗｸｽﾏﾝ来日・ 1792＝64歳：老を以て，*明倫堂督学を辞し，
松平定信引退1793＝65歳：

ﾌﾞﾛｰﾄﾝ来航・1796＝68歳：_老骨鞭打って米沢藩に赴き，隠居していた上杉鷹山と念願の再会を果たして，

伊能測量始・1800＝72歳：
本居宣長没・1801＝73歳：_没した。
著書に「小語」「嚶鳴館遺稿」「嚶鳴館遺草」「嚶鳴館詩集」「をしまのとまや」などがある。

「知多偉人伝第1巻」，「人づくり風土記(愛知)」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，